



種壺クラブ 2

設定

ボディビルダー学生 × 変態監督。

高校時代の野球部の先輩が所属するバーベルクラブに入部した主人公。

そこでは指定のプロテインの摂取が義務付けられているが、そのプロテインには媚薬の効果と依存性があった……。

第一話では翼がプロテインの依存性に負け、監督の言いなりになっているうちに男との性行為をさせられるようになり、最終的には不特定多数の男にまわされ中出しされる『種壺』になってしまいました……。

第二話はその続きの話となります。

※「依存」をテーマとした物語で、少し洗脳要素もあります。

集団金的責め、猿轡、食糞、アヘウホ鳴き、罰ゲーム落書き、羞恥露出、公開アナニー、ろうそく責め、輪〇等

15000 字程度で、画像のみ AI で作成しています。

登場人物

池谷 翼(いけたに つばさ) 19 歳 1年

明るく無邪気、人に好かれやすい。

神谷 恵一(かみや けいいち) 21 歳 3 年

翼の高校の先輩でバーベルクラブ所属。

須藤 明(すどう あきら) 40 歳 監督

体育会気質。ほしいものを手に入れるためには手段を選ばない。

境 雄一(さかい ゆういち) 19 歳 1 年

翼と同じ高校で同じく野球部出身。大学も一緒だが狡猾な性格のため、翼は距離を置いていた。

落度

夕方のトレーニングルーム。照明は半分だけついていて、鉄の匂いが静けさをより濃いものにしていて。

そこにいたのは、神谷ひとりだけだった。監督もまだ来ていないのか、広い部屋にいるのは自分たちだけ。

「……ごめんな」

ぽつりと落ちたその言葉に、翼は思わず胸がつまる。

「謝らないでください。自分で選んだんですから」

先輩の申し訳なさそうな、自分を責めるような表情を見ていたら、抱きしめたくなくなってしまう。気づけば、その距離は自然に近づいていた。息づかいがすぐそばで感じられるほどに。

神谷は困ったように目をそらす。普段は爽やかで、堂々として、皆の前では完璧な先輩のはずなのに、今は、ただひとりの青年として揺れているように見えた。

気づけば、翼の唇が神谷の唇と重なっていた。衝動だった。理由なんてうまく説明できない。

「……だめだよ。部員同士は。監督に見つかったらまずい……」

神谷は低い声で言った。拒絶というより、翼を心配しているように。それでも、離れがたい空気が二人を包む。踏み出せば戻れないこともわかっていたが、引き返すことも、もう簡単ではなかった。

ちゅばあ……ちゅば……ちゅば……ベロベロベロ……ぶちゅう……♡

「はあ……はあ……はあ……翼……」

神谷も翼も頬を赤くして見つめ合う。男なんかに興味はなかったのに、高校の時の神谷の姿も、種壺にされているときの神谷も、今の神谷もすべてが愛おしく思えた。

二人は69の体勢になると、お互いのペニスをしゃぶり合い始めた。いつもの練習のときとは違った感覚。監督の命令ではなく、自分たちの意志でしゃぶりあう。

ジュポッ・チュウ……ジュポッジュジュボ……ジュボジュボ……ジュボ♡

(やっぱり……おいしい……すごい興奮する……神谷先輩のは特に……)

二人のペニスからは汁がとめどなくあふれてきて、何度もびくついていて、「気持ちいい」と知らせ合っていた。

翼は起き上がると、自身に入っているバイブを抜いて、仰向けでペニスをびくつかせている神谷の上にゆっくりと腰をおとしていった。正直どっちでもよかつ

た。神谷のペニスをのみこもうが、自分のペニスを神谷にいれようが……ただ、神谷とつながっていたかった。

じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷッじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷッ♡

翼はこの間、翼が神谷の中で快感を得たお礼をするように自らのアナルをしめつけ、神谷のペニスを刺激していった。

「ぐう……つばき……ごめん……ごめんな……うう……ッ」

「謝らないでください……あゝッ……先輩は……ああ……何も悪くない……んっ……」

翼は体を前方に倒し、再度神谷とキスをする。もう謝らないでという願いを込めて。神谷もさっきよりも積極的に舌をからめている。二人はお互いの失ったものをおぎなうようになぐさめあっていく。

ガラガラッー！

突然トレーニングルームのドアが開き、そこには監督が立っている。ふるえだす神谷。

翼も部のルールということは知っているため、すぐに神谷から離れる。

「も……申し訳ありません！」